

さいたま市立中央図書館 ブックリスト

追悼 2022

～本で振り返る～



今年も多くの著名人が惜しまれつつ逝去されました。

蔵書の中から日本人作家を中心に、ベストセラーとなった代表的な作品を紹介します。

世に送り出された作品の数々を振り返り、作者の功績を偲びます。

◆編集・発行 さいたま市立中央図書館 令和4年12月◆

== 作家 ==

石原慎太郎 (1932年- 作家・政治家)

- 『太陽の季節』 新潮社ほか

大学在学中に第1回文學界新人賞と第34回芥川賞を受賞。

- 『弟』 幻冬舎 1996年

弟、石原裕次郎を描いた120万部のベストセラー。

- 『「No」と言える日本 -新日米関係の方策-』 光文社 1989年

ソニー創業者の一人である盛田昭夫との共著。125万部を売り上げ、続編も刊行された。

西村京太郎 (1930年- 推理小説作家)

- 『寝台特急殺人事件』 光文社 1978年

トラベルミステリーというジャンルを生み出した第1作。

- 『赤い帆船』 光文社 1973年

シリーズ化した十津川警部の初登場作。当時はまだ警部補だった。

西村賢太 (1967年- 作家)

- 『苦役列車』 新潮社 2011年

第144回芥川賞受賞作。

大谷羊太郎 (1931年- 推理小説作家)

- 『殺意の演奏』 講談社 1971年

第16回江戸川乱歩賞受賞作。旧浦和市出身。

神坂次郎 (1927年- 作家)

- 『縛られた巨人-南方熊楠の生涯-』 新潮社 1987年

尾崎秀樹記念・第1回大衆文学研究賞受賞作。

 津原泰水 (1964年- 作家)

- 『ブラバン』 バジリコ 2006年

 光原百合 (1964年- 作家)

- 『十八の夏』 双葉社 2002年

第55回日本推理作家協会賞短編部門受賞作。

 野田知佑 (1938年- 作家・カメラリスト)

- 『日本の川を旅する -カメラ単独行-』 講談社ほか

第9回日本ノンフィクション賞・新人賞受賞作。

 佐野真一 (1947年- ノンフィクション作家)

- 『旅する巨人 -宮本常一と渋沢敬三-』 文藝春秋 1996年

第28回大宅壮一ノンフィクション賞受賞作。

- 『東電OL殺人事件』 新潮社 2000年

 宮崎学 (1945年- ノンフィクション作家・評論家)

- 『突破者-戦後史の陰を駆け抜けた五〇年-』 南風社 1996年

== 児童文学 ==

児童文学界に多大なる影響を与えたレジェンドたち…

 松岡享子 (1935年- 翻訳家・児童文学研究者)

『おふろだいすき』などの作者であり、『くまのパティントン』シリーズなどの翻訳も手掛ける。石井桃子らと「東京子ども図書館」を設立。

 山脇百合子 (1941年- 絵本作家・挿絵画家)

姉・中川李枝子との共著『ぐりとぐら』シリーズは海外でも翻訳される代表作。

 松居直 (1926年- 編集者・児童文学者)

福音館書店の設立に携わり、月刊誌『母の友』『こどものとも』などを創刊。

＝ 作家以外 ＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

 稲盛和夫 (1932年－ 実業家。京セラ等創業者)

- 『アメーバ 経営 -ひとりひとりの社員が主役-』 日本経済新聞 2006年
- 『生き方 -人間として一番大切なこと-』 サンマーク出版 2004年

 出井伸之 (1937年－ 実業家。元ソニー社長)

- 『ONとOFF』 新潮社 2002年
- 『非連続の時代』 新潮社 2002年

 福島章 (1936年－ 精神科医・犯罪心理学者)

- 『犯罪心理学入門』 中央公論社 1982年
- 『家族が壊れるとき』 小学館 1999年

 近藤誠 (1948年－ 医師)

- 『患者よ、がんと闘うな』 文藝春秋 1996年
- 『医者に殺されない47の心得』 アスコム 2012年

 イビチャ・オシム (1941年－ 元サッカー日本代表監督)

- 『オシムの言葉』 木村元彦／著 集英社インターナショナル 2005年

ご本人の著作ではないが“オシム語録”と呼ばれた知将からのメッセージ。第16回スノボライター賞受賞作。

このリストに掲載している図書は、さいたま市立図書館で所蔵しています。貸出や予約（順番待ち）ができます。

さいたま市図書館ホームページ <https://www.lib.city.saitama.jp/>

さいたま市立中央図書館 浦和区東高砂町1-1

TEL 048-871-2100 FAX 048-884-5500

